

世界の外貨準備から見えること

世界の外貨準備に関する IMF のデータが公表された。24 年第三四半期末時点の世界の外貨準備の通貨構成だ。今回のポイントは次の諸点だ。

第一に、ドルの割合が統計開始以来最低水準に低下したことだ。ドルの割合は長期低減傾向を示してきたがそのトレンドが継続している。絶対額では減少幅が目立つわけではないが、割合は明確な低下傾向にある。とは言え、もはや国際的に絶対的地位を占めていない決済通貨としてのドルとは異なり、価値保存通貨としてのドルは依然として他を圧倒している。二番手の通貨であるユーロはドルの 3 分の一ほどの割合しかない。ドルの一極体制と言われる所以だ。

ただドルの割合は今後も減少が思われ、あるレベルを超えると一気にドル離れが起こる可能性も否定できない。例えば象徴的な 50% だ。そうなれば国際金融のシステムの問題が浮上する可能性がある。金融市場も混乱する。それを防ぐには事前に今後の国際金融のシステムの構築の議論を始めなければならない。現在のドル一極体制をベースの通貨制度と IMF 体制の再構築だ。

もう一つはオーストラリアドル、カナダドル、その他通貨の割合が増加を続けていることだ。特にその他通貨の割合はポンドに迫る勢いがある。ドルからのシフトだ。これは多分中国によるものだろう。ユーロ、円、ポンドなどの主要通貨ではなくその他の通貨へのシフトは、通貨の多極化それにグローバルサウスを重視する中国の意図が背後にある。

三つめは中国の人民元の割合の減少傾向が止まったように見えることだ。決済通貨としての人民元の割合に比べ外貨準備の割合は非常に小さい。これは中国が資本取引規制を積極的に行うためだ。人民元の割合は 2022 年第一四半期までは每期微増を続けていたが、そこをピークに前期まで微減を繰り返していた。中国には人民元をドルに代わるあるいは匹敵する国際通貨にする意図は今のところない。それより多極化体制を志向する。

次に今回の各通貨のデータを示す。

① ドルの割合は 57.39% で史上最低レベル。長期低減傾向継続中。

- ② ユーロの割合 20.02%に上昇。21 年第4四半期以来の 20%台を示した。長期間 20%前後で推移している。地政学リスクや各国の政治リスクに関わらずユーロのポートフォリオが減少しないのは、グローバリズムの象徴でもある単一通貨の底力なのだろう。
- ③ 円の割合は 5.82%だった。ドル円が 140 円台前半を付けていた頃なのでドル建ての数字がかさ上げされている面があるが、円の割合は底堅く安定している。
- ④ ポンドの割合は 4.97%だ。これは 10 年来の高さだ。EU 離脱前の割合よりも多く、外貨準備の増加した新興国などからの需要も見られる。
- ⑤ オーストラリアドル (2.27%)、カナダドル (2.74%)、その他通貨 (4.46%)
これらの通貨と通貨群はこのところ每期増加が続いている。ちなみにその他通貨とは、香港ドル、シンガポールドル、スウェーデンクローナ、韓国ウォン、ノルウェークローネ、インドルピー、メキシコペソ、などが考えられる。

以上です。